

橋村りかと声なき声をつむぐ会（後援会） ニュース

第29号 2026年9月発行



「あなたが今ここに生きていること、 それ自体がこの社会の希望です」

— 菊陽町・益城町 街頭トーク報告 —

9月16日（菊陽町）と17日（益城町）、橋村りかさんが朝の街角に立ち、地域のみなさまと対話を行いました。沖縄知事選をめぐるニュースや、ある大学生との長電話、そして自ら足を運ぶ被災現場で出会った人々との言葉——。日々の暮らしの中で感じている「生きづらさ」や「置き去りにされている声」にどう向き合っていくべきか。2日間の街頭からの訴えをお届けします。

■ 「国益」や「お金」の前に、 一人ひとりの人権と暮らしがある （9/16 菊陽町より）

先日行われた沖縄県知事選をめぐり、「国益にかなう」「言うことを聞けば豊かにしてやる」といった言葉が使われました。しかし、橋村りかさんはこの言葉に強い危うさを感じたと語ります。

「81年前の沖縄戦で『国のために』と捨て石にされた人々の犠牲や苦しみを想うとき、お金や利益と引き換えに『国や中央の言うことを聞け』と迫る構造は、本当の自由や人権と言えるでしょうか。私たちが目指すべきは、誰もが意志を尊重され、不当に我慢を強いられない社会です」

■ 「自分を選ばなかった人の 思いにこそ耳を傾けたい」 （9/17 益城町より）

益城町の街角では、前日の夜に大学3年生の若い仲間と交わした長電話のエピソードが紹介されました。

『どうして選挙に勝った人は「自分に投票してくれた人に報いる」と言うのかな。自分を選ばなかった人や、批判をしてくれる人にこそ向き合うのが、本当の民主主義じゃないのかな』

学びを深める若者からのこの問いかけに、橋村さんは深くうなずきました。「自分に都合の良い声ばかりを聞き、厳しい意見に耳を塞ぐ政治が、人々の分断を生んでいます。自分を選ばなかった人の思いや痛みを心に刻んでこそ、誰もが安心して暮らせるまちづくりができるはずです」

日々の暮らしの中で
感じている
「生きづらさ」や
「置き去りにされている
声」にどう向き合ってい
くべきか。



■「自己責任」と言われ、

声を上げられずにいるあなたへ

熊本の被災現場を歩く中で、訪問先の多くで最初に返ってくるのは「うちはもう十分です」「もっと大変な人がいるから」という遠慮の声です。しかし時間をかけて話を聞くと、実は「地震の前からずっと暮らしが苦しかった」という本音がこぼれ出します。

「頑張れる人だけを応援し、つまづいた人や苦しんでいる人には『自己責任だ』声を上げないのは困っていないからだ」と冷たく突き放す社会。苦しいと声を上げる心の余裕すら奪われているのが現実です。でも、あなたが声を上げないからといって、困っていないわけではないはずです」

■誰も取り残さない

「共に生きる社会」をつくる

橋村りかさんが目指しているのは、「インクルーシブ」という難しく聞こえる言葉の先にある、誰もが「ここにいていいんだ」と思える「共に生きる社会」です。

障害の有無、年齢、性別、国籍、あるいは病気や生活の困りごと。どんな背景を持っていたとしても、「自分は生きていていいのだろうか」と孤独を感じている人にこそ寄り添い、その小さな声をすくい上げて届けていく。それが、市民の代表としての橋村りかの役割です。

■子どもたちに「生まれてきてくれてありがとう」と言える社会に

学童保育の現場で子どもたちと向き合う日常から、橋村りかさんは子どもや若者の置かれた環境へ強い危機感を抱いています。

「相手を傷つけてしまっても『面白かったから』と答えてしまう子どもたちや、追

いつめられて過ちに走ってしまう若者たち。その背景には、心や教育の貧困があります。能力や効率ばかりを求め、武器を備えて相手を牽制するような『強さ』ではなく、困難を抱える子どもに『生まれてきてくれてありがとう』と寄り添える『優しさ』と『温もり』こそが、この社会の本当の豊かさです」

■ 私たちの税金は、

暮らしと命を守るために

被災地では、壊れた我が家や冷房もない車庫で耐え忍ぶ人々が今もいらっしやいます。

「命を奪うための準備ではなく、今日を必死に生きている被災者の方々や、将来に悩む若者、子育て世帯や高齢者、障害のある方々の暮らしを直接支えるためにこそ、私たちが納めた税金が使われるべきです。誰もが安心して暮らせる社会の基盤をつくることこそ、政治の最も大切な役割です」

■【結び】政治を変えるのは、

主権者である私たち自身です

街頭で胸に掲げた手作りの「主権者」のタスキ。橋村りかさんは集まった市民へ温かい眼差しで呼びかけました。

「子どもたちには『生まれてきてくれてありがとう』、高齢の方々には『社会を支えてきていただいて本当にありがとう』と心から伝え合いたい。まちをつくり、社会を変えていくのは、一部の政治家や権力者ではなく、ここで生きている私たち主権者一人ひとりです。

『ここに生きている人間の声を聞け』——みなさんの胸の奥にある本当の想いを、どうぞ橋村りかさんに聴かせてください。共に励まし合い、歩んでまいりましょう」